



オーライ！ ニッポンニュース

GT商品コンテストもいよいよ終盤、第8回オーライ！ニッポン大賞の結果を含めて3月9日、第8回オーライ！ニッポン全国大会を代々木で開催します。平成23年2月21日

NPO法人いすみライフスタイル研究所(いすみ市)×近畿日本ツーリスト株式会社(東京都)

(5)「古の風に願いを乗せて旬の島食材を王都に集めろ！ 杵岐の島歴史ぐるめぐりツアー」(長崎県)・・・杵岐体験型観光受入協議会(杵岐市)×株式会社農協観光九州グリーンツーリズム支店(福岡市)

第8回オーライ！ニッポン全国大会開催案内

第8回オーライ！ニッポン全国大会を3月9日に代々木で開催致します。都市農村交流、地域活性化に関する実践者や事例発表等を予定としています。日頃、都市と農山漁村の共生・対流に活躍される方々の参考となる内容にしたいと思っておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております※お申込みはオーライWEBサイトからお願いします。

◆開催日時:平成23年3月9日(水)
13:30~17:30

◆開催場所:オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟「小ホール」

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

【交通のご案内】

■小田急線・・・参宮橋駅下車 徒歩約7分、

■地下鉄千代田線・・・代々木公園駅 下車(代々木公園方面4番出口)徒歩約10分

■京王バス・・・新宿駅西口(16番)より「代々木5丁目」停留所下車 渋谷西口(14番)より、「代々木5丁目」停留所下車

◆参加費:無料

【プログラム】

13:30 開会

13:40 第8回オーライ！ニッポン大賞表彰式

14:00 第1部:先進的な共生・対流事例紹介(オーライ！ニッポン大賞受賞事例紹介)

15:15 第2部:基調講演

講師 星野文紘氏

(山伏・羽黒山宿坊大聖坊)

16:00 第3部:旅のトレンドをつくる

「着地型旅行」の事例紹介

(グリーン・ツーリズム商品コンテスト事例紹介)

17:30 閉会

主催:オーライ！ニッポン会議、農林水産省

後援:総務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、観光庁

第1部 先進的な共生・対流事例紹介

今年度のオーライ！ニッポン大賞の受賞事例発表を行います。※「オーライ！ニッポン大賞」は、現在、審査中です。

第2部:基調講演の講師 星野文紘氏(山伏・羽黒山宿坊大聖坊)です。経歴は、1946年山形県出羽三山羽黒山宿坊「大聖坊」の三男として生まれ、1971年東洋大学文学部を卒業後、「大聖坊」十三代目を継承し、山伏の入門修行である「秋の峰」に初入峰、山伏名「尚文」を拝命する。2007年に出羽三山の最高の修行である「冬の峰百日行」の松聖を



© Haruya Toukairin

務める。2008年より「松例祭」国分けの神事で山伏の最高位羽黒権現役である所司前を務める。2000年より三日間の大聖坊山伏修行も実施する。また全国各地で修験道の講演をし「こころ」「いのち」「健康」「農業」「芸能」の重要性を訴える。一方地元でも農村と都市との交流をすべき修験道の本来的活動をする。(現職)出羽三山神社責任役員理事、多摩美術大学芸術人類学研究所特別研究員、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡理事、庄内農文化交流推進協議会監事

修験道の様式や教えから、もともと日本人にある自



© Haruya Toukairin

然観、宗教観、社会観、また星野氏が行う山伏体験に訪れる若者や女性、外国人の傾向から、現代社会が何を求めているのか、その要求に対して、農村や伝統文化がどのような役割を担っていくのか。山伏の修行によって自分を律することの意味、農村に残っている古き良き考え方など、山伏の星野さんから見た今の日本(農山漁村)についてお話を伺います。

第3部:旅のトレンドをつくる「着地型旅行」の事例紹介

今年度(第2回)の「グリーン・ツーリズム商品コンテスト」の受賞者より、催行したモニターツアーの様子、商品づくりで苦労した点、実施して判った今後の展開などを伺います。

(1)「七戸にんにく里親物語」(青森県)・・・七戸町かだれ田舎体験協議会(七戸町)×青森通リズム株式会社(八戸市)

(2)「【大人の楽校】いちのせきでタイムスリップ！～過去から現在・未来へ、つなぐ・伝える食体験～」(岩手県)・・・たびれっじ推進協議会(一関市)×株式会社JTB東北奥州支店(奥州市)

(3)「山の内雪まつり！！今年は日本中からまつりを一緒に作ってくれるかた募集します！」大作戦(山形県)・・・株式会社ティー・ゲート(東京都)×山の内地域づくり協議会(村山市)

(4)「いすみツーリズム 2010 房総いすみで美と健康と癒し体験ツアー」(千葉県)

GT商品コンテスト優秀表彰式を開催しました！



1月25日(火)に静岡県男女共同参画センターアザレア大ホ

ールにおいて、GT商品コンテスト2010の表彰式を開催し、選考委員会の丁野委員長から、優秀賞5点と特別賞3点の代表に表彰状が贈られました。表彰状の授与、記念写真の撮影に引き続き、審査委員会の丁野委員長(社)日本観光協会常務理事)から、審査にあたっての講評をいただきました。受賞されたグリーン・ツーリズム商品の企画については、それぞれプレゼンテーションをお願いしました。一地区3分以内(!)という限られた時間の中にも関わらず、地域の現状や商品化までの経緯、モニターツアーのセールスポイントなどを、わかりやすく、簡潔にお話しいただきました。83件もの多数の応募の中から優秀賞に選定されただけあって、やはり、どの商品も大変魅力的な内容で、是非ツアーに参加してみたい気持ちになりました。

講評として、丁野朗委員長から以下の話がありました。GT商品コンテストの2年目になる2010年は、昨年7月から9月末までの募集期間に、全国から83件のご応募を頂きました。このGT商品コンテストは、農林漁業関係者と旅行会社が協力・連携して応募するという条件があり、より実現性の高い商品づくりを目指した取り組みを、「異業種交流」で実現

するところ
に大きな
意義が
あると思
います。

さて、
今年
の優
秀賞
選考

は大変苦労しました。というも1年目に比べて、商品化のレベルがさら高まっており、応募された皆さんの



実力が確実に高まっている、というのが委員全員の実感でした。

ただ、「優秀賞」は5点しか枠がありません。そこで、この5点に続く高い評価を得た作品の中から3点を「特別賞」として選定することにしました。

これらの選定にあたっては、次の7つの基準・視点を重視しました。

1点目は「顧客マーケティング」。商品がどのようなお客様をターゲットに、どんな価値・満足を提供しようとしているのか。マーケティング視点が不明確だと、お客さまへのメッセージがきちんと伝わらず、結局は商品化に失敗します。

2点目は、「地域資源の活用」地域には、既存の優れた資源だけでなく、お客さまを感動させる未知の資源がまだまだあります。これらの資源をきちんと編集することで、新しい地域魅力が生まれます。特に、旅行の重要な要素は「食」です。食材だけでなく、これらの加工や食の作法といったことに工夫すれば、お客さまに喜んで頂ける新しい資源になります。

3点目は「事業の実施主体」がしっかりしているかどうかという点です。モニターツアーはもとよりですが、安定的な事業を継続実施していくためには、この実施主体がしっかりしているかどうか重要になります。これら実施主体には、地域内の多様な方々の協力と連携の仕組みができていくことも重要となります。

4点目は、企画がどんなに勝れていても、「商品性」がなければ売れません。価値にみあった適切な商品魅力と適正な価格が設定されているかどうか。商品内容に、お客さまがこれなら「お得」と思っているかどうかです。

5点目は、ツアーが確実に実現できるかどうかという「ツアーの実現性」です。確実にお客さまを集めて、初期の効果を確実に出すという実現可能性を重視しました。

6点目は、今回の事業が単にモデルツアーで終わるのではなく、これが持続的に継続できること。つまり事業としての「継続性」を評価項目としました。

最後の7点目は、このツアーが成功するためには、顧客ターゲットに対して確実に情報が届き、誘引できる「情報発信・プロモーション」が重要です。この情報発信・プロモーションが適切かどうかという点も評価しました。

以上の7点に注目して審査して頂いた結果、次の5つの商品を「優秀賞」に選定させて頂きました。

1つ目は、「**七戸(しちのへ)にんにく里親物語**」です。これは青森連の「七戸町かだれ田舎体験協議会」と「青森通リズム」の提案作品です。青森県はにんにく生産日本一ですが、その皆さんが「畑のオーナー制度」を設け、オーナーになって頂いた方々に年に何回か現地に来てもらうというツアーです。雪原に埋もれたニンニク畑の見学、「こびり(おやつ)」に、にんにくピザを試食するなど、特産品ブランドと観光交流事業を一体的に展開する一石二鳥を狙う取組です。地産地消やブランド化に取り組む全国の地域に大いに参考になると思います。



2つ目は、【**大人の楽校**】いちのせきでタイムスリップ！～過去から現在・未来へ、つなぐ・伝える食体験で、岩手県一関市の「たびれっじ推進協議会」と「JTB東北」からのご提案です。

一関市での1泊2日の旅を「学びの学校」になぞらえ、授業形式で酒蔵見学や新酒試飲、伝統芸能の神楽、郷土のもてなし料理である「もち本膳」などを体験して貰うものです。地域文化を過去から現在・未来という時間軸で編集し、商品化するといった視点が面白いと思いました。もち本膳の体験では、入学式には江戸末期以前に建設された建物を使い、当時の装束に身を包み、伝統作法に従って行うという、時代の流れを体験できるストーリー展開が興味深い商品です。

3つ目は、「**山の内雪まつり！！今年は日本中からまつりを一緒に作ってくれる方募集します！！**」大作戦を提案して頂いた「**栲ティー・ゲート**」と「**山の内地域づくり協議会**」の作品です。

山の内地域づくり協議会は、豪雪地帯の村山市内で、地元の方々と一緒に雪まつりで交流するという商品づくりを通して、いままでも話す機会があまりなかった地域の関係者の皆さんの交流が生まれ、地域を見直す機会となりました。また、ツアー参加者が地域の応援団となるなど、参加者と地域が連携するという効果もあります。ツアー当日はかなり冷え込むけれど、「地域と参加者の「絆」が共有できるような温かい心の通った企画にしたい」という提案者の熱い意気込みも評価されました。



それから、4つ目は「**いすみツーリズム 2010 房総いすみで美と健康と癒し体験ツアー**」を提案して頂いた「**NPOいすみライフスタイル研究所**」と「**近畿日本ツーリスト**」の提案商品です。

いすみ市の女性たちが、移住者の増加を目的に、女性の視点で企画してくれました。ツアーも「女性限定」と対象を絞りこみ、地元産の安全で新鮮な食材を使った食事と豊かな自然環境を満喫しながら美容と健康に効果的なヨガやセラピーを入れた癒しのプログラムを体験する内容です。加えて、すでに地域で魅力的な活動している移住者との情報交換を通じて、飾らない農村の姿、ライフスタイルの魅力を引き出そうという野心的な商品です。

最後の5つ目は「**古の風に願いを乗せて旬の島食材を王都に集める！**」を提案して頂いた、「**老岐体験型観光受入協議会**」と「**農協観光**」の提案です。

福岡港から船で出航し、魏志倭人伝の「**一支国(いきこく)**」の王都があったとされる老岐の歴史と豊かな食文化を学ぶ旅です。海に閉ざされ熟成した文化をもつ島そのものが大変な文化資源です。農業体験で収穫した野菜、豆腐作り体験で作った豆腐、漁業体験で獲った魚、真珠の珠出し体験で得た貝柱などを使って「古代食」の調理体験をするという、オリジナリティあふれる作品です。



そのほか、特別賞については、次の3点が選ばれました。1つは「**大井川鉄道沿線まるごとツアー**」**「心も身体も元気に！やんばい体験**」です。「**栲大鉄(だいてつ)アドバンス・大井川鉄道**」と「**大**

井川鉄道「田の口駅」花と緑の会」の皆さんからの



共同提案です。
全国でも珍しい、毎日運行のSLに乗り、全国煎茶品評会で日本

一に輝く「川根茶」の美味しい飲み方を楽しみながら学び、寸又(すまた)峡の自然を楽しむ散策、大井川鉄道の無人駅・田野口駅では、地元お茶農家のお母さんたちとの美味しい川根茶と手作りの漬物、煮物、里芋の炭火焼きなどで「お茶のみ談義」をするという、心も身体も温かくなる心づくしの交流旅です。



2つ目は「**いちご電車に乗って、たま駅長を訪ねて～農に親しみ、フルーツを満喫する旅**」です。「**貴志川(きしがわ)線の未来を**

つくる会」の皆さんと「**栲日本旅行**」の提案です。貴志川線「猫のたま駅長」は今や全国的に有名になりました。車両の内外装をイラストで飾った「いちご電車」、「たま電車」、「おもちゃ電車」に乗り、沿線の特産物であるいちご狩り体験と指導者によるフルーツ解説や農家レストランでの新鮮な野菜の食事、日本一の農産物直売所「めっけもん広場」での買い物など話題性のある内容になっています。

3つ目は「**浜田産のちょっと教えて！ 伝統食・ルーツの旅**」で、浜田市ツーリズム協議会と栲農協観光浜田支店からのご提案です。



石見地方の山間部で昔から食べられていた様々な郷土料理を、料理・食材にまつわる話を聞きながら、朝・昼・おやつ・夕食

に分けて食べるというものです。また、ユネスコ無形文化遺産に登録された石州半紙と、それを使用した石見神楽の道具に触れ、奉納神楽を鑑賞することで、石見人を創りあげたスピリットを感じるという旅です。以上、優秀作品5点と特別賞3点をご紹介します。いずれも優れた視点と内容をもつ素晴らしい商品です。受賞団体の皆さんには、改めてお祝いを申し上げたいと存じます。優秀賞の5点については、実際にモニターツアーを実施して、参加者からの反響を参考に、今後さらに発展的・持続的な事業につなげていって頂きたいと切に願っております。また、今回受賞されなかった方々も、今回の受賞作品を参考にいただきながら、今後、さらに一層頑張ってください、トライアルして頂ければと思います。最後になりましたが、今回ご応募いただきました83地域・商品に係られた皆さん、そして、受賞されました8地域の皆さん、本当にありがとうございました。

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 45 番地
神田金子ビル 5 階 (財)都市農山漁村交流活性化機構
内 オーライ!ニッポン会議 TEL03-4335-1985